# ニデック、空飛ぶクルマ部品に参入　エンブラエルと合弁

2023/6/18 5:00 | 日本経済新聞　電子版

エンブラエルの子会社は「空飛ぶクルマ」の受注実績が2700台以上ある

ニデック（旧日本電産）は18日、「空飛ぶクルマ」の部品事業に参入すると発表した。リージョナルジェット機最大手のエンブラエル（ブラジル）と合弁会社を設立し、空飛ぶクルマ向けにモーターを開発・生産する。2028年までに合弁会社を通じ約200億円を投資する。電動化が進む航空機向けの部品を新たな事業の柱に育てる。空飛ぶクルマの関連産業が離陸し始めた。

ニデックとエンブラエルが9月にも米ミズーリ州に「ニデック・エアロスペース」を設立する。資本金は未定だが、ニデックが51%、エンブラエルが49%を出資する。社長はニデックが派遣する方針だ。

**エンブラエルとの合弁、30年に売上高1500億円規模へ**

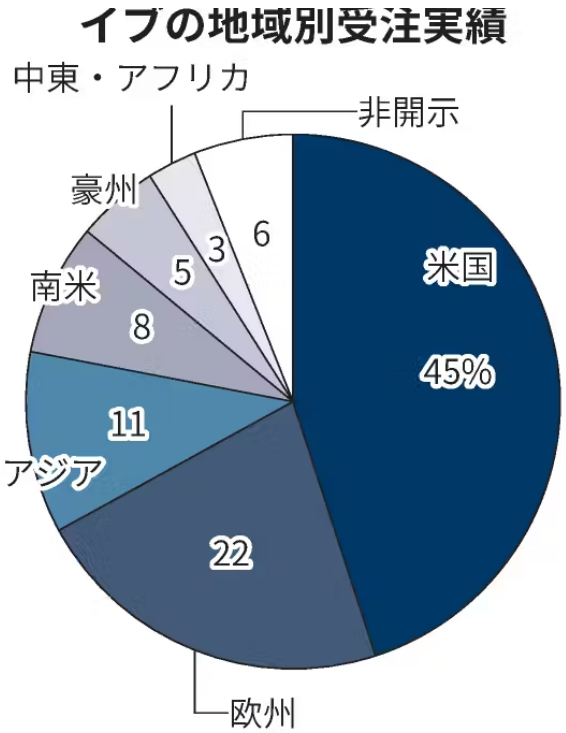
ニデック・エアロスペースは今後5年間に設備投資と研究開発に約200億円を投じ、メキシコにモーターの生産拠点を置く。ニデックの高出力モーターと、エンブラエルのモーター制御技術を生かし、空飛ぶクルマメーカーにモーターと制御システムをセットで提供する。30年に1500億円規模の売上高を見込む。

第1弾として、空飛ぶクルマを開発するエンブラエルの子会社「イブ・ホールディング」に供給する。イブは26年に自社開発した機体の商用飛行を始める計画で、世界12カ国から2700台以上の受注実績がある。ニデック・エアロスペースはイブの機体の大半にモーターを納め、ほかの空飛ぶクルマメーカーからも受注を目指す。

空飛ぶクルマは電動垂直 ... 着陸し、ヘリコプター
や小型飛行機の特徴を持 ... くため温暖化ガスの排
出量の削減につながる。

まずは物流や近距離旅客 ... スタンレーは世界の空
飛ぶクルマ市場が40年に

空飛ぶクルマ市場の成長 ... い風だ。デンソーは米
重電大手ハネウェルと共 ... の空飛ぶクルマに供給
する。トヨタ自動車は出 ... と駆動装置部品の長期
契約を結んだ。



（出所）イブ・ホールディングの開示資料より

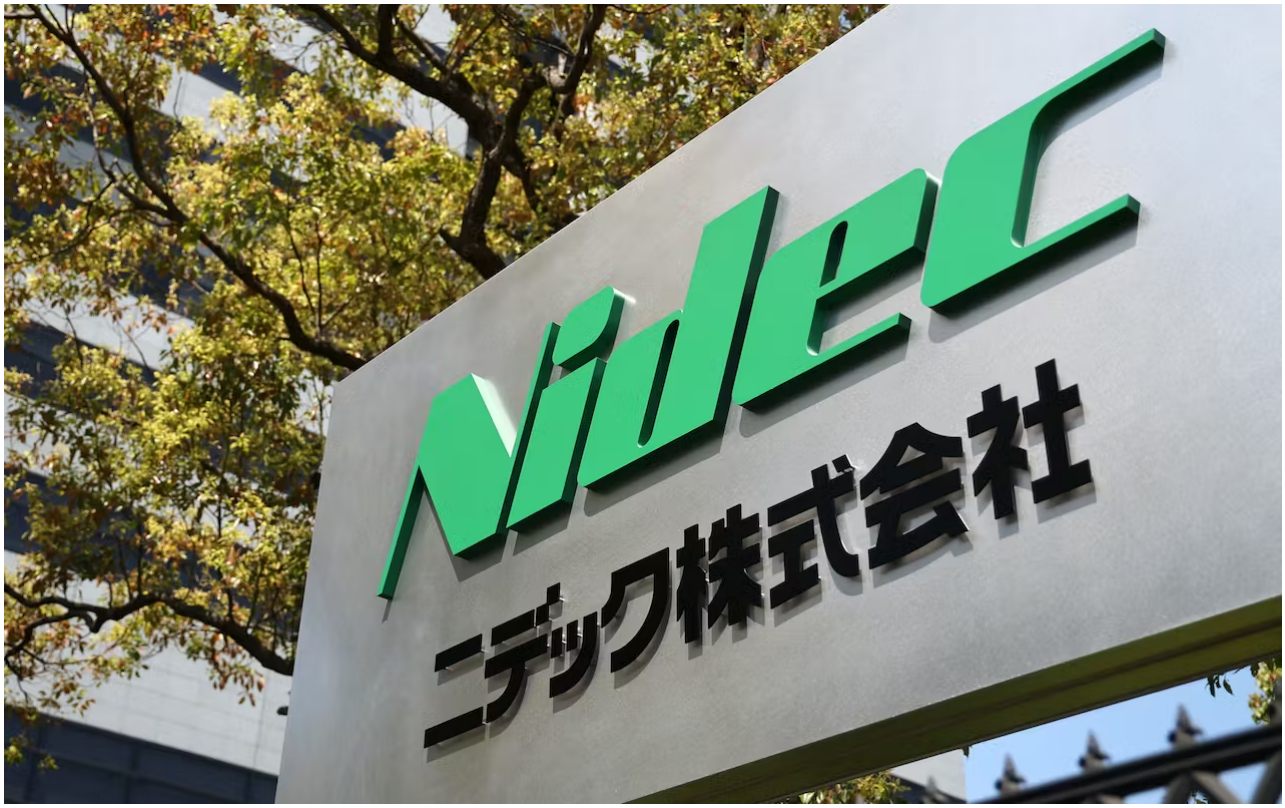
海外では米MAGicALL（ クルマのモーター会社に選ばれた。欧州自動車大手のステランティスは米新興企業アーチャーと生産や部品会社の紹介などで提携している。

航空大手や、空飛ぶクルマで航空市場への進出を狙う自動車大手が、有力な部品会社を囲い込む動きが広がる可能性がある。

**強みのモーター技術を航空機分野にも広げる**

ニデックはハードディスクドライブ（HDD）向け精密モーターで世界シェア首位となり急成長した。パソコン需要の減少とともに、HDD向けモーター事業は縮小し、精密小型モーター事業全体の売上高は3000億～4000億円規模で横ばいが続く。

源流の精密モーターで磨いた軽薄短小の技術を、M&A（合併・買収）で参入した家電や産業、車載用モーターに応用して事業を拡大し、現在の連結売上高は2兆円を超す。



ニデックは強みのモーター技術を航空機分野にも広げる

足元では電気自動車（EV）用の駆動モーターで重量を2割減らして重希土類を削減した新型を市場投入し、今後の事業のけん引役として期待している。

今回の空飛ぶクルマへの参入は、電動化する航空産業の需要取り込みの足がかりとなる。

温暖化ガス排出量の抑制の観点から、航空産業ではジェットエンジンを電動モーターに転換する開発が進む。ニデックはすでにエアバスと水素を動力とする航空機向けの試作モーターの開発でも連携しており、多角的な需要取り込みを目指す。

エンブラエルがニデックの軽薄短小のモーター技術に注目し、合弁事業を呼びかけた。両社は空飛ぶクルマ向けの部品の研究開発を22年初めに始めた。材料や設計の変更を繰り返し、「浮揚」と「推進」に使う2つのモーターを開発している。軽さと耐久性の観点から開発にめどがたち合弁会社の設立に踏み切ったもようだ。

（大平祐嗣）

【関連記事】
・東レが「空飛ぶ車」向け材料開発　名古屋に新研究施設
・欧州ステランティス「空飛ぶ車」製造へ　米社に出資拡大
・ブラジル「空飛ぶ車」の開発前進　米ユナイテッドが出資